

大 使 ニ 對 ス ル 訓 令 案
昭、一五六一〇
條約對策委員會
貴大、使ハ左記ニ依リ新中央政府トノ間ニ日支新關係調整ニ關スル
條約締結ノ交渉ヲ開始セラレ度シ

記

一 帝國政府ハ新政府ノ承認ヲ條約締結ノ形式ニ於テ行フモノナル
處右條約ノ構成及其内容トシテ取極ムベキ事項ノ範圍及緊要度
ニ關シ交渉ノ基礎トシテ別紙第一「條約體系概要」、別紙第二
「日滿支共同宣言書要綱」、別紙第三「日支間ノ新國交修復ニ
關スル條約要綱」、及別紙第四「附屬議定書要綱」ヲ決定セリ
而シテ「條約體系概要」ニ掲ゲラレタル諸取極中右以外ノモノ
ニ就キテハ目下銳意審議中ニシテ引續キ決定ノ上送付セラルベ
シ
ニ 支那ノ滿洲國承認ハ今回ノ條約締結前又ハ遅クトモ之ト同時ニ
必ス之ヲ實行セシムルヲ要ス

外務省

0001

而シテ承認ノ形式ニ付テハ我方トシテハ日滿支三國政府ガ主權
及領土ノ相互尊重並ニ相互提携ノ精神ヲ共同ニ宣言スル別紙第
二ノ如キ形式ニ依ルコト最モ適當ナルベシト認ムル次第ナリ
ニ 新條約ハ帝國ガ支那ニ於ケル抗日勢力ニ對シ大規模ナル戰爭行
爲ヲ繼續シツツ我方占據地域内ニ於テ成立セル新政府ヲ相手ト
シ締結スルモノナル點ニ於テ通常交戰國間ニ於テ休戰後締結セ
ラルル講和條約トハ本質的ノ相違アリ、即チ新條約ハ事變ノ善
後處置及今後永キニ渉ル日支關係ノ規準ヲ定ムルモノタルヲ要
スル外、之ト同時ニ内國民ノ士氣ヲ振作シ事變完遂ニ對スル國
民的結束ヲ確クシ、外支那人心ヲ把握シテ事變ノ解決ノ促進ニ
資シ、且第三國ニ對シテハ帝國國策遂行ニ關スル不動ノ決意及
其ノ具體的限界ヲ明示スルモノタルヲ要スル次第ナリ
右ハ公表セラルベキ諸取極ノ規定ニ關シ政府ノ特ニ意圖スル點
ナリ

外務省

0002

四 我國ノ支那ニ於ケル戦争行為ハ尙大規模ニ進行中ナルヲ以テ我
方トシテ新政府ノ承認、新條約ノ締結ニ依リ聊モ戦争行為ニ果
ヲ及ボスカ如キ拘束ヲ受クルコトヲ欲セサルハ勿論、新政府モ
進ンテ事變解決ノ爲我方ト密接ニ協力スベキモノト認ムルモノ
ニシテ別紙第四「附屬議定書要綱」中ニモ此點ヲ明記シ誤解ナ
キヲ期シタリ

五 今回交渉ガ大體客年十二月三十日梅機關、汪側間ニ内約セラレ
タル「日支協議書類」ノ線ニ沿ヒテ行ハルルコトトナルベキコ
トハ從來ノ經過殊ニ支那側ノ立場トシテ當然ニシテ政府ニ於テ
モ條約取極ノ立案ニ當リ努メテ此點ニ留意シタリ。而シテ交渉
ノ開始ニ當リ支那側トシテハ先ヅ「日支協議書類」全體ノ確
ヲ求メ來ルコトアルベキ處我方トシテハ貴大使ニ於テ我方モ亦
大體右「日支協議書類」ノ趣旨ニ準據シ交渉ヲ行フ意向ニシテ
今回提示スベキ我方ノ案ガ大體右「協議書類」ノ趣旨ニ合致セ

外務省

0003

ルモノナル旨及前記「條約體系概要」ニ含まレザル事項ニ關シ
テハ「日支協議書類」ニ件フ特殊事態ノ存在ヲ考慮ニ入レツソ引續キ右
「日支協議書類」ノ規定ノ趣旨ニ準據シ日支兩國協力シテ國交
修復ノ爲之カ具現ニ努ムヘク又條約諸取極ヲ補足スル爲引續キ
右趣旨ニ準據シ具必要ニ應シ更ニ具體的事項ニ付協定ヲ折衝締
結スベキ旨ヲ回答セララルルモ差支ナシ。又先方ニ於テ強テ主張
スルニ於テハ「條約體系概要」ニ含まレザル事項中ノ或ルモノ
ニ付此際取極ヲナスコトモ考慮シ得サルニハ非ス。然レドモ其
場合ニ於テモ我國トシテ戦争遂行中ナル現在ノ事態ニ於テ「協
議書類」(別冊)ニ掲ゲラレタル事項ニ關シ將來ニ對シ拘束ヲ受ク
ルガ如キ取極ヲ今直チニナスコトハ困難トスル處ナルニ付御含
シ置キ相成度シ

六 今回交渉ハ特ニ機微且重大ナルヲ以テ政府ト密接ナル聯絡ヲ保
持シ交渉ノ經過ニ就テハ隨時報告セラレ度シ

外務省

0004

機密ノ保持ニ就テハ重慶側及第三國側ノ策動等ニモ鑑ミ特ニ新
 政府側トモ充分打合セ萬全ヲ期セラレ度シ
 七 新政府ガ帝國ト條約ヲ締結スルノ資格ノ點ニ關シテハ別ニ訓令
 セラルベシ

0005

外務省

「別紙第一」

條約體系概要

- 一 日滿支共同宣言
- 二 日支間關係條約
- (一) 基本條約 (公表)
- (二) 日支間ノ國交修復ニ關スル條約

昭、一、九、六、一、〇
 條約對策委員會

0006

(三) 附屬經濟協定 (公表)

- ○
- 一 特殊事態ノ承認
- 二 既成事實ノ承認
- 三 撤兵
- 四 日本人ノ受ケタル損害補償及支那難民救濟
- ○
- 一 一般産業協力
- 二 北支、蒙疆
- 三 海南島
- 四 揚子江下流地域
- 五 合辦會社

外務省

(四) 附屬協定 (秘密)

- 一 外交提携
- 二 願問
- 三 治安駐兵
- 四 交通等ノ軍事的要求權
- 五 駐屯ニ伴フ便宜供與
- 六 航路氣象、鐵道、海運、水運、通信

(五) 交換公文 (秘密)
(各個別的ノモノトナルヘシ)

- 一 北支政務委員會
- 二 蒙疆自治
- 三 揚子江下流地域
- 四 海南島省
- 五 廈門特別市

備考 ○ラ附シタルモノハ我方トシテ必ス承認ニ當リ基本條約及共同宣言ト共ニ同時ニ取極ムルコト必要ト認ムル事項

外務省

0007

「別紙第三」

日滿支共同宣言書要綱 (案) 昭一五 六一〇
條約對策委員會

日本國政府、滿洲國政府及中華民國政府ハ三國ガ密ニ相提携シテ道義ニ立脚スル東亞ノ新秩序ヲ確立シ以テ永遠ノ平和ヲ保持センコトヲ希望シ左ノ如ク宣言ス

一、日本國、滿洲國及中華民國ハ相互ニ其ノ主權及領土ヲ尊重ス

二、日本國、滿洲國及中華民國ハ善隣友好ノ實ヲ舉グル爲施政ノ各般ニ互リ互助致睦ノ手段ヲ講ス

註、本書ハ三國ノ全權委員之ニ署名シ發表スルモノトス

外務省

0008

「別紙第三」

日支間ノ新國交修復ニ關スル條約要綱(案)

昭一五 六一
條約對策委員會

日支兩國政府ハ兩國ガ東亞ニ於ケル新秩序建設ノ理想ノ下ニ相互ニ善隣トシテ結合シ東洋平和ノ樞軸タルコトヲ共同ノ目標トナシ之カ爲日支兩國間ノ新關係ヲ律スヘキ基本的條件トシテ次ノ各條ヲ協定セリ

第一條 兩國ハ相互ニ本然ノ特質ヲ尊重シ善隣友好ノ實ヲ舉グル爲各般ニ互リ互助救陸ノ手段ヲ講スルコトヲ約ス

兩國ハ政治、外交、教育、宣傳、交易等諸般ニ互リ相互ニ好直ヲ破壞スルガ如キ措置及原因ヲ撤廢シ且將來ニ互リ之ヲ禁絶ス兩國ハ文化ノ融合、創造及發展ニ協力ス

第二條 兩國ハ協同シテ防共ニ當リ且共通ノ治安維持ニ關シ協力ス
日本ハ蒙疆並ニ北支ノ一定地域ニ所要ノ日本國軍ヲ駐屯シ又兩

外務省

0009

國ハ各々其領域内ニ於ケル共產分子及其組織ヲ排除スルト共ニ防共ニ關スル情報宣傳等ニ關シ提携協力ス

日本ハ揚子江沿岸特定ノ地點及兩支沿岸特定ノ島嶼並ニ之ニ關聯スル地點ニ艦船部隊ヲ駐留ス

第三條 兩國ハ平等互惠ノ精神ニ依リ且長短相補ヒ有無相通スルノ趣旨ニ基キ緊密ナル經濟上ノ提携ヲ行フ

兩國ハ支那領域内ニ於ケル資源殊ニ北支、蒙疆及海南島並ニ附近ノ島嶼ニ於ケル國防上必要ナル特定資源ノ開發ニ關シ緊密ニ協力ス右資源ノ利用ニ關シ支那ハ日本國及日本國臣民ニ對シ特別ノ便宜トヲ提供ス

兩國ハ一般通商ヲ振興スルト共ニ兩國間ノ物資需給ヲ便宜且合理的ナラシムル爲必要ナル措置ヲ講ス、揚子江下流地域ニ於ケル兩國ノ通商交易ノ増進及日本ト北支並ニ蒙疆間ノ物資需給ノ合理化ニ關シテハ特ニ緊密ニ協力ス

外務省

0010

兩國ハ支那ニ於ケル産業、金融、交通、通信ノ復興、發達ニ關
シ案密ニ協力ス
第四條 日本ハ日支新關係ノ發展ニ照應シ漸次租界ノ還附、治外
法權ノ撤廢等ヲ行フ
支那ハ別ニ協定セラルル處ニ依リ日本國臣民ノ爲内地ヲ開放ス
第五條 兩國ハ本條約ノ目的ヲ達成スル爲必要ナル事項ヲ別ニ協
定ス

0011

「別紙第四」

附屬議定書（公表）要綱（案）

昭、一五六一〇
條約對策委員會

第一條

中華民國政府ハ日本國カ現ニ中華民國領域内ニ於テ遂行シツツア
ル戰爭行爲ヲ繼續スル期間右戰爭行爲遂行ニ伴フ特殊事態ノ存在
スルコト及日本國カ中華民國領域内ニ於テ右戰爭行爲ノ目的達成
上各般ノ措置ヲトルコトヲ諒解シ右目的完遂ニ協力スルコトヲ約
ス
右特殊事態ハ戰爭行爲繼續中ニ在リテモ日本國ノ右目的達成上之
ヲ許ス限リ情勢ノ推移ニ應ジ條約及附屬諸取極ノ精神ニ基キ調整
セラルベキモノトス

第二條

中華民國政府ハ臨時、維新政府其他地方政府ノ辨シタル一切ノ政
務ヲ其ノ儘承認スベク之等政府ノ辨シタル諸般ノ現行事實ハ引續

0012

キ有效ナルコトヲ確認ス
右既成事實中本日調印セラレタル「日支間ノ新國交修復ニ關スル
條約」及附屬日支間取極ノ規定ニ依リ調整セラルベキモノニ付テ
ハ將來事態ノ推移ニ應ジテ日支兩國間ノ協議ニ依リ逐次必要ナル
調整ヲ計ルモノトス

第三條

日本ハ抗日勢力ニ對スル軍事行動ヲ終了シタル時ハ中華民國ニ派
遣セル約定以外ノ軍隊ノ撤去ヲ開始シ治安確立後二年以内ニ之ヲ
完了スベク中華民國政府ハ本期間ニ於テ治安ノ確立ヲ保障スルモノトス

第四條
中華民國政府ハ事變發生以來支那ニ於テ日本國臣民ノ蒙リタル權
利利益ノ損害ヲ補償スベキコトヲ約ス
日本國政府ハ事變ノ爲生ジタル支那難民ノ救濟ニ就キ中華民國政
府ニ協力スベキコトヲ約ス

外務省

0013

「大使ニ對スル訓令案」ニ關スル
大使隨員團希望事項
六月十日
六月十日內示アリタル「大使ニ對スル訓令案」ニ對スル大使隨員
團希望事項要旨左ノ通

「原案記第一項ニ關シ
イ、「帝國政府ハ新政府ノ承認ヲ條約締結ノ形式ニ於テ行フモ
ノナル處」ヲ削除スルカ又ハ之ニ代フルニ「帝國政府ハ新政
府承認ノ一方法トシテ條約締結ノ形式ニ依ラントスルモノナ
ル處」ノ趣旨ヲ以テスルコト

ロ、「交渉ノ基礎トシテ」ヲ削除スルカ又ハ之ニ代フルニ「我
方概案トシテ」ノ趣旨ヲ以テスルコト

ニ原案記第二項ニ關シ
「今回ノ條約締結前」ヲ削除スルコト

三原案記第五項ニ關シ

外務省

0014

イ、「殊ニ支那側ノ立場トシテ」ヲ削除スルコト
ロ、「支那側トシテハ先ツ日支協議書類全體ノ確認ヲ求メ來ル
コトアルヘキ處」ヲ削除スルコト
ハ、「回答セラレ差支ナシ」ニ代テ「明カニシ要スレハ文
書ヲ以テセラレ差支ナシ」トノ趣旨ヲ以テスルコト
ニ、「然レトモ其場合ニ於テモ、、御含置キ相成度」ニ代
テ「但シ協議書類別冊ニ付テハ別ニ指示ス」トノ趣旨ヲ
以テスルコト

外
密
名

0015

REEL No. A-0231

對米、英、蘭開戰ノ場合ニ於ケル帝國ノ對支方策
(十六、十一、十)

一方 針

對米英蘭開戰ノ重慶側ニ與フル影響並ニ國民政府其他占領地内ニ於ケル諸政權及人心ニ及ホス影響(別紙甲號參照)ハ相當深刻ナルモノアルヘキヲ以テ對米英蘭開戰後ニ於ケル對支作戰ハ帝國對世界戰ノ一部分ニ過キサルコトヲ常ニ念頭ニ置キツツ今後ノ對支諸施策ニ當リテハ全局面トノ關係ニ於テ緩急宜ンキヲ得ルニ努ムルト共ニ出來得ル限り支那ニ於ケル消耗ヲ避ケ長期世界戰ニ對處スヘキ帝國綜合戦力ノ確保ニ資スルヲ以テ根本方

0016

針トス

二、要 領 (詳細ハ別紙乙號參照)

(一) 對英米蘭作戰ト共ニ支那事變ハ益々長期持久戰トナルヘキ處重慶ニ對シテハ對米英蘭開戰ト同時ニ實質上ノ交戦權ヲ強化發動スルニ止メ(後述(四)參照)依然宣戰ノ布告ヲ行ハス又諸般ノ關係ヲ考慮シ國民政府ヲシテ帝國ト共ニ米、英、蘭ニ對シ宣戰ヲ布告セシムルコトナシ
(二) 對重慶作戰ハ敵ノ企圖ヲ未然ニ防止スル程度ノ作戰ニ止メ帝國綜合戦力ヲ消耗セシムルカ如キ攻勢的作戰ハ出來得ル限り之ヲ避ケ以テ前線各局面ニ於テ重慶側トノ間ニ事實上ノ休戰飽和狀態ヲ現出セシムル如ク施策ス

0017

3

(三) 占領地内ニ於ケル支那側要人ノ活動ヲ出來得ル限り誘導促進シ日支協力ノ下ニ民心ノ把握ニ努メ以テ可能ナル地域ヨリ漸次局部和平ヲ實現センム

(四) 七月二十七日陸海外事務當局間ニ意見一致セル「支那事變完遂ノ爲差當リ執ルヘキ措置」ニ基キ援蔣行爲ノ絶滅ヲ期ス

(五) 海上ヨリスル對重慶經濟封鎖ハ益々之ヲ強化スルモ占領地ト非占領地トノ物資關係ニ付テハ非占領地ヨリスル物資獲得ニ重點ヲ置キ占領地ニ於ケル物資流通ニ關スル現行制限ニ合理調整ヲ加フ

(六) 陸海軍部隊等在支英米武力ハ速ニ之ヲ支那ヨリ一掃スルカ如ク施策スルモ敵性租界ニ對スル工作ハ我方綜合戦力ノ消耗ヲ

外務省

0018

4

避クルト共ニ長期持久戦ノ爲ノ物資獲得ヲ圖ルコトニ重點ヲ置キ武力接收等ノ形式ヲ避ケ現ニ進行中ノ「ライン」ニ於テ之カ實質的把握ヲ圖ルヲ以テ主眼トナス

(七) 海關、鑛山等在支敵性重要權益ノ處理ニ當リテハ常ニ長期全面戦ノ進行狀況ト睨ミ合セ、我國ノ人的並ニ物的負擔ヲ成ルヘク輕カラシムル様留意スルモノトス。之カ爲メ急激ナル措置ハ出來得ル限り之ヲ避ケ我方勢力下ニ漸次其ノ實質ヲ把握スル如ク努力スルモノトス

(八) 國民政府其他占領地域ニ於ケル既成政權及支那側第三勢力ニ對シ日支提携ノ前途ニ二分ノ希望ヲ持タシムル爲メ事變ニ伴フ特殊事態ノ調整ハ既定ノ方針ニ則リ依然之ヲ繼續シ、以

外務省

0019

テ對英米蘭戰爭一段落後ニ於ケル日支全面和平ノ一舉解決ニ
備フルモノトス。

(九) 支那ニ於ケル金融通貨等經濟諸工作ニ關シテハ局部的見解ニ
偏スルコトナク常ニ南方ニ於ケル帝國綜合戰トノ關係ヲ考慮
シ全體トノ調和ヲ計ルモノトス、

(十) 重慶ノ屈服ハ對米英蘭開戰後帝國カ東亞及南西太平洋ニ於テ
戰略上優位ノ態勢ヲ確立スルト共ニ重要資源ヲ確保シテ長期
自給自足ノ態勢ヲ整ヘ得テ初メテ之ヲ庶幾シ得ルモノナルヲ
常ニ念頭ニ入レ先ツ英米勢力ノ壊滅ヲ圖ルコトニ全力ヲ傾到
ス。從ツテ右態勢確立前ニ重慶トノ直接交渉ヲ策シ乃至ハ重
慶政權ノ壊滅ニ焦慮スルカ如キ施策ハ之ヲ爲ササルモノトス

外務省

0020

6

十一月五日 御前會議決定「帝國國策遂行要領」ニ關聯スル對外措置

昭和十六年十一月三日
連絡會議決定

外務省

0021-1

一、對獨伊

日米交渉決裂シ戦争不可避ト認メラレタル際（大體十一月二十五日以後ト想定ス）ニハ遲滞ナク獨（伊）ニ對シ帝國ハ近ク準備成リ次第英米ニ對シ開戦スルノ意嚮ナル旨ヲ通報シ右準備ノ一部ナリトシテ左記事項ニ付必要ナル交渉ヲ行フモノトス

一、獨（伊）ノ對米戦争参加

二、單獨不憐和
備考、獨伊側ヨリ對「ソ」參戰ノ要求アリタル場合ニハ差當リ參戰セサル旨ヲ以テ應酬ス但シ之カ爲獨側ノ對米参戰ノ時期カ遅ルルカ如キ事態生スルモ已ムヲ得ス

外務省

0021-2

一、對英

對米交渉ノ結果タル了解事項中英國ニ關係アル事項ヲ英國ヲシテ受諾セシメ且之ニ積極的ニ協力セシムル様速ニ直接又ハ米ヲ通シ措置シ置クモノトス

右以外企圖隱匿ノ見地ニ於テ特別ノ外交措置ヲ行フコト無シ

外務省

0022

9

一、對蘭印

我企圖隱匿欺騙ニ資スルタメ成ルヘク速ニ從來交渉繼續ノ形式ニ於テ帝國ニ對スル所要物資ノ供給ヲ主眼トスル外交交渉ヲ遂次開始ス

一、對「ソ」

概ネ昭和十六年八月四日大本營政府連絡會議決定ニ係ル對「ソ」外交交渉要綱第一項ニ準據シテ交渉ヲ續行ス

外務省

0023

10

一、對 泰

1、進駐開始直前左記ヲ要求シ迅速ニ之ヲ承認タシム
泰ニシテ帝國ノ要求ニ應ヤサル場合ニ於テモ軍隊ハ豫定ノ如ク進駐ス、但シ日泰間武力的衝突ハ之ヲ局限スルニ努ム

左記

- イ、帝國軍隊ノ通過竝ニ之ニ伴フ諸般ノ便宜供與
- ロ、帝國軍隊ノ通過ニ伴フ日泰軍隊ノ衝突回避措置ノ即時實行

ハ、泰ノ希望ニヨリテハ共同防衛協定ノ締結
(註) 本交渉開始前ニ於ケル對泰態度ハ從來ト特別ノ變化ナカラズ特ニ開戦企圖ノ秘匿ニ萬全ノ考慮ヲ拂フモノトス

外務省

0024

2、進駐後速カニ概ネ左ノ諸件ニ關シ具體的現地於テ取扱フ行フ

イ、帝國軍隊ノ通過及駐屯ニ關スル事項

ロ、軍用施設ノ供用及新設増強

ハ、所要ノ交通通信機關及工場施設等ノ供用

ニ、通過竝ニ駐屯軍隊ニ對スル宿營、給養等

ホ、所要軍費ノ借款

備考 第一、第二項ノ交渉ニ當リテハ昭和十六年二月一日大本

營政府連絡會議決定ノ對佛印泰施策要綱ニ準據シ泰ノ主

權及領土ノ尊重ヲ確約シ尙泰ノ態度ニヨリテハ將來「ビ

ルマ」若クハ馬來ノ一部ヲ割讓スヘキ事ヲ考慮スヘキ旨

ヲ仄カシ以テ交渉ヲ有利ナラシム

外務省

0025

一、對支

出來得ル限り消耗ヲ避ケ以テ長期世界戰ニ對處スヘキ帝國綜合

戦力ノ確保及將來兵力減少ノ場合等ヲ念頭ニ置キ左ノ通り措置

スルモノトス

1、在支米英武力ヲ一掃ス

2、在支敵性租界（北京公使館區域ヲ含ム）及敵性重要權益（海

關、鎮山等）ヲ我實權下ニ把握ス但シ我國ノ人的的物物的負

擔ヲ成ルヘク輕カラシムル様留意スルモノトス

（註）共同租界及北京公使館區域ハ敵性武力ヲ一掃シテ我實

權下ニ收ムルモ友好國權益ヲモ混入スルヲ以テ接收等

ノ形式ヲ取ラサルモノトス

外務省

0026

- 3、前諸項ノ發動ハ我企圖ヲ暴露セサル爲我對米英開戦後トス
- 4、重慶ニ對スル交戦權ノ發動ハ特ニ宣言等ノ形式ヲ以テスルコトナク對米英開戦ヲ以テ事實上其實效ヲ收ムルモノトス
- 5、在支敵國系權益中國民政府ニ關係アルモノモ必要ニ應シ差當リ我方實權下ニ把握スルモノトシ之カ調整ハ別ニ措置ス
- 6、占領地内ニ於ケル支那側要人ノ活動ヲ出來得ル限リ誘導促進シ日支協力ノ下ニ民心ノ把握ニ力メ以テ可能ナル地域ヨリ漸次局部和平ヲ實現セシム
- 7、對支經濟關係ニ於テハ物資獲得ニ重點ヲ置キ之カ爲現行諸制限ニ合理的調整ヲ加フルモノトス

外務省

5/6
十一月十三日連絡會議決定「帝國國策遂行要領ニ關聯スル對支措置」ニ基キ國際情勢急轉ノ場合支那ニ於テ執ルヘキ措置

- 一、在支英國租界ニ對シテハ下令ト共ニ所要ノ兵力ヲ進駐シ我カ占領下ニ之ヲ把握ス但シ努メテ現機構ヲ利用シ之カ運營ニ當ルモノトス
- 二、上海共同租界及北京公使館區域ニ對シテハ下令ト共ニ兵力ヲ進駐セシムルモ右進駐ニ當リテハ所要ノ限度ヲ越ユルコト無ク努メテ靜謐ヲ旨トシ能フ限リ混亂動搖ヲ生セシメサル様措置スルト共ニ帝國領導下ニ努メテ現有機構、施設及人員竝ニ支那側等ノ各種機關ヲ利用シテ諸般ノ圓滑ナル運營ヲ續行セシムルモノトス
- 三、廈門共同租界ニ付テハ右ニ進スルモノトス

外務省

15-

三、佛國租界ニ對シテハ差當リ兵力ヲ進駐セシメス事態ノ推移ニ即應
シ我方ヨリ租界當局ニ對シ所要ノ協力強化ヲ要求スルモノトス
今後ノ情勢如何ニ依リテハ佛國側ノ同意ヲ得タル上兵力ヲ進駐セ
シム

四、敵國系權益ノ處理ハ原則トシテ帝國自ラ之ヲ行フ
右處理ニ當リテハ我方施策ト併行シ別ニ國民政府ヲシテ所要ノ聲
明ヲ發セシムル等中央政府トシテノ同政府ノ立場ヲ保持セシムル
如ク努ムルモノトス

五、海關ニ關シテハ現機構ヲ保全シ努メテ其ノ機能ヲ停止セシメサル
如ク措置スルモノトス

國民政府ヲシテ適時邦人主席稅務司ヲ總稅務司ニ任命セシメ總稅

0029

外務省

16-

務司署ヲ接收セシムルト共ニ海關全體ニ亘リ所要ノ敵性職員ヲ排
除シ帝國ノ掌握下ニ於テ經濟施策強化ニ寄與セシムルモノトス

六、郵政ニ關シテハ國民政府ヲシテ所要ノ敵性職員ヲ排除セシムルモ
郵政機能ノ圓滑ナル運行ヲ阻害セシメサル様留意スルモノトス但
シ郵便ハ軍ニ於テ所要ノ檢閲ヲ實施ス

七、英米蘭人竝ニ其ノ權益ハ努メテ公正ニ之ヲ取扱ヒ我方監視下ニ於
テ其ノ逃散ヲ防止スルト共ニ之カ利用ニ努ムルモノトス

八、英米蘭ノ外交官及領事官竝ニ大公使館及領事館ニ對シテハ其ノ特
權ヲ認メス其ノ職務ヲ停止セシム

國民政府ヲシテ帝國ト同政府トノ關係及未承認等ヲ理由ニ我方ニ
進シ適宜措置セシム

0030

外務省

九帝國ノ開戦ニ當リ國民政府ハ差當リ之ヲ參戰セシメス事實上帝國ト緊密一體ノ施策ヲ行ハシム

七國民政府ヲシテ我方ト緊密ナル協力ノ下ニ世界長期戰ニ對處スヘキ帝國ノ負擔輕減ニ寄與セシムル爲既定方針ニ則リ國民政府ヲ育成強化シ以テ其ノ自主的活動ヲ誘導促進スルニ努ム

十一國民政府ヲシテ今次戰爭ノ眞意義ヲ一般ニ徹底セシムル爲帝國ト緊密ナル協力ノ下ニ啓蒙宣傳ニ努メシムルト共ニ極力民生ノ安定ニ力ヲ致シテ一般官民ノ動搖ヲ防止シ進ンテ民心ヲ把握セシムル様措置ス

十二對支經濟施策ニ當リテハ我方自給圈ニ於ケル綜合經濟力ノ保持増進ヲ目的トシ現地生産力ノ活用、地場資本ノ誘導、必需物資ノ

外務省

増産獲得等ニ重點ヲ置キ之カ爲必要ナル各般ノ措置ヲ講スルモノトス

備考

前諸項中國國民政府ト關係アルモノニ付テハ事前ニ同政府ト緊密ニ連絡スルモノトス

外務省

十一月十三日連絡會議決定一帝國國策遂行要領
 一 離聯スル對支措置ニ基キ國際情勢急變ノ場
 合支那ニ於テハキ措置
 二 在支英國租界ニ對シテハ下令ト共ニ所要ノ兵力ヲ進駐シ我カ占
 領下ニ之ヲ把握ス但シ努メテ現機構ヲ利用シ之カ運營ニ當ルモ
 ノトス
 三 上海共同租界及北京公使館區域ニ對シテハ下令ト共ニ兵力ヲ進
 駐セシムルモ右進駐ニ當リテハ所要ノ限度ヲ越ユルコト無ク努
 メテ研議ヲ旨トシ能フ限り混亂動搖ヲ生セシメサル様措置スル
 ト共ニ帝國領導下ニ努メテ現有機構、施設及人員竝ニ支那側等
 ノ各種機關ヲ利用シテ諸般ノ圓滑ナル運營ヲ續行セシムルモノ

外務省

0033

トス
 一 廈門共同租界ニ付テハ右ニ準スルモノトス
 二 佛蘭租界ニ對シテハ差當リ兵力ヲ進駐セシメス事態ノ推移ニ即
 應シ我方ヨリ租界當局ニ對シ所要ノ協力強化ヲ要求スルモノトス
 今後ノ情勢如何ニ依リテハ佛蘭側ノ同意ヲ得タル上兵力ヲ進駐
 セシム
 三 敵國系權益ノ處理ハ原則トシテ帝國自ラ之ヲ行フ
 右處理ニ當リテハ我方施策ト併行シ別ニ國民政府ヲシテ所要ノ
 聲明ヲ發セシムル等中央政府トシテノ同政府ノ立場ヲ保持セシ
 ムル如ク努ムルモノトス
 四 海關ニ關シテハ現機構ヲ保全シ努メテ其ノ機能ヲ停止セシメサ

外務省

0034

21

ル如ク措置スルモノトス

國民政府ヲシテ適時邦人主席稅務司ヲ總稅務司ニ任命セシメ總稅務司署ヲ接收セシムルト共ニ海關全體ニ亘リ所要ノ敵性職員ヲ排除シ帝國ノ掌握下ニ於テ經濟施策強化ニ寄與セシムルモノトス

六 郵政ニ關シテハ國民政府ヲシテ所要ノ敵性職員ヲ排除セシムルモノトス

七 郵政機能ノ圓滑ナル運行ヲ阻害キシメサル様留意スルモノトス但シ郵便ハ軍ニ於テ所要ノ檢閱ヲ實施ス

八 英米蘭人竝ニ其ノ權益ハ努メテ公正ニ之ヲ取扱ヒ我方監視下ニ於テ其ノ逃散ヲ防止スルト共ニ之カ利用ニ努ムルモノトス

九 英米蘭ノ外交官及領事官竝ニ大公使館及領事館ニ對シテハ其ノ特權ヲ認メス其ノ職務ヲ停止セシム

外務省

0035

02

國民政府ヲシテ帝國ト同政府トノ關係及未承認等ヲ理由ニ我方ニ準シ適宜措置セシム

一 帝國ノ開戦ニ當リ國民政府ハ差當リ之ヲ參戰セシメス事實上帝國ト緊密一体ノ施策ヲ行ハシム

二 國民政府ヲシテ我方ト緊密ナル協力ノ下ニ世界長期戦ニ對處スヘキ帝國ノ負擔軽減ニ寄與セシムル爲既定方針ニ則リ國民政府ヲ育成強化シ以テ其ノ自主的活動ヲ誘導促進スルニ努ム

三 國民政府ヲシテ今次戰爭ノ眞意義ヲ一般ニ徹底セシムル爲帝國ト緊密ナル協力ノ下ニ啓蒙宣傳ニ努メシムルト共ニ渾力民生ノ安定ニ力ヲ致シテ一般官民ノ動搖ヲ防止シ進ンテ民心ヲ把握セシムル様措置ス

外務省

0036

十一 對支經濟施策ニ當リテハ我方自給圈ニ於ケル綜合經濟力ノ保持増進ヲ目標トシ現地生産力ノ活用、地場資本ノ誘導、必需物資ノ増産獲得等ニ重點ヲ置キ之カ爲必要ナル各般ノ措置ヲ講スルモノトス

備考

前諸項中國政府ト關係アルモノニ付テハ事前ニ同政府ト密ニ連絡スルモノトス

外務省

支那内地ノ現地之概況ニ於テハ作事見一列シ居ルモノトス。不案ノ内容ニ對シテ陸海軍トモ交渉スル所ナリ。但シ概況ノカキ付ルモノトシテ陸海軍トモ交渉スル所ナリ。陸海軍トモ交渉スル所ナリ。

十一月十三日連絡會議決定一帝國國策遂行要領ニ關聯スル對支措置ニ基キ國際情勢急轉ノ場合支那ニ於テ執ルヘキ措置

一 在支英國租界ニ對シテハ下令ト共ニ所學ノ兵力ヲ進駐シ我カ占領下ニ之ヲ把握ス但シ努メテ現機構ヲ利用シ之カ運営ニ當ルモノトス
二 上海共同租界及北京公使館區域ニ對シテハ下令ト共ニ兵力ヲ進駐セシムルモ右進駐ニ當リテハ所學ノ限度ヲ越ユルコト無ク努メテ辭讓ヲ旨トシ能フ限リ混亂動搖ヲ生セシメサル様措置スルト共ニ帝國領導下ニ努メテ現有機構ノ施設及人員竝ニ支那側等ノ各種機關ヲ利用シテ諸般ノ圓滑ナル運営ヲ續行セシムルモノトス
廈門共同租界ニ付テハ右ニ準スルモノトス

外務省

25

↑
1507

ニ佛國租界ニ對シテハ差當リ兵力ヲ進駐セシメス事態ノ推移ニ即應
 シ我方ヨリ租界當局ニ對シ所望ノ協力強化ヲ要求スルモノトス
 今後ノ情勢如何ニ依リテハ佛國側ノ同意ヲ得タル上兵力ヲ進駐セ
 シム
 四 敵國系權益ノ處理ハ原則トシテ帝國自ラ之ヲ行フ
 右處理ニ當リテハ我方施策ト併行シ別ニ國民政府ヲシテ所望ノ聲
 明ヲ發セシムル等中央政府トシテノ同政府ノ立場ヲ保持セシムル
 如ク努ムルモノトス
 五 海關ニ關シテハ現機構ヲ保全シ努メテ其ノ機能ヲ停止セシメザル
 如ク措置スルモノトス
 國民政府ヲシテ適時邦人主席稅務司ヲ總稅務司ニ任命セシメ總稅

外務省

0039

26

務司署ヲ接收セシムルト共ニ海關全體ニ亘リ所望ノ敵性職員ヲ排
 除シ帝國ノ掌握下ニ於テ經濟施策強化ニ寄與セシムルモノトス
 六 郵政ニ關シテハ國民政府ヲシテ所望ノ敵性職員ヲ排除セシムルモ
 郵政機能ノ圓滑ナル運行ヲ阻害セシメザル様留意スルモノトス但
 シ郵便ハ軍ニ於テ所望ノ檢閲ヲ實施ス
 七 英米蘭人竝ニ其ノ權益ハ努メテ公正ニ之ヲ取扱ヒ我方監視下ニ於
 テ其ノ逃散ヲ防止スルト共ニ之ヲ利用ニ努ムルモノトス
 ハ 英米蘭ノ外交官及領事官竝ニ大公使館及領事館ニ對シテ其ノ特
 權ヲ認メス其ノ職務ヲ停止セシム
 國民政府ヲシテ帝國ト同政府トノ關係及未承認等ヲ理由ニ我方ニ
 準シ適宜措置セシム

外務省

0040

自給自足

九帝國ノ開戦ニ當リ國民政府ハ差當リ之ヲ參戰センメス事實上帝國
 ト緊密一體ノ施策ヲ行ハシム
 六國民政府ヲシテ我方ト緊密ナル協力ノ下ニ世界長期戦ニ對處ス
 キ帝國ノ負擔輕減ニ寄與センムル爲既定方針ニ則リ國民政府ヲ
 成強化シ以テ其ノ自主的活動ヲ誘導促進スルニ努ム
 十一國民政府ヲシテ今次戰爭ノ眞意議ヲ一般ニ徹底センムル爲帝國
 ト緊密ナル協力ノ下ニ啓蒙宣傳ニ努メンムルト共ニ極力民生ノ安
 定ニ力ヲ致シテ一般官民ノ動搖ヲ防止シ進シテ民心ヲ把握セン
 ル様措置ス
 十二對支經濟施策ニ當リテハ我方自給自足ニ於ケル綜合經濟力ノ保持
 増進ヲ目標トシ現地生産力ノ活用、地場資本ノ誘導、必需物資ノ

0041

外務省

増産獲得等ニ重點ヲ置キ之カ爲必要ナル各般ノ措置ヲ講スルモノ
 トス
 備考
 前議項中國國民政府ト關係アルモノニ付テハ事前ニ同政府ト緊密
 ニ連絡スルモノトス

0042

外務省

第一方針

佛印ニ對シテハ既定方針ニ依リ既存條約關係ニ基ク日佛印間ノ特殊緊密關係ヲ益々増進センムル建前ヲ執ルコトトシ且佛印軍ニ依リ軍事上ノ積極的協力ヲ期待セザルモ帝國ノ戰爭遂行竝ニ軍ノ取戰及安全ノ必要上佛印側ヲシテ飽ク迄自主的ニ我方ニ協力センムルコトトス。但シ英米側ヲシテ出來得ル限り佛印ヲ敵國トシテ取扱ハンメザル如ク措置スルモトス。

第二要領

一 重慶領事ニ對シテハ戰爭開始前領外退去方佛印側ニ要求スルト共ニ我方トシテ右ニ必要ナル措置ヲ行フ。
 英米領事ニ對シテハ戰爭開始ト同時ニ之カ通信阻止方佛印側ニ交渉シ且我方トシテ右ニ必要ナル措置ヲ執ルト共ニ以後佛印側ヲシテ之カ保護取締ヲ爲サシム。
 二 佛印領内ノ治安維持ハ原則トシテ佛印警察當局ニ委ヌヘキモ

外務省

我警備軍ト佛印警察當局トノ緊密ナル協力ヲ實現センムル爲

佛印警察ニ我方ヨリ顧問又ハ連絡官派遣方容認センム

ニ通信及運輸ニ對スル佛印側ノ便宜供與ニ付テハ出來得ル限り

佛印側ノ立場ヲ尊重シツ我方要求ヲ容認センム

金融上ノ便宜供與ノ爲佛印側ト交渉シ且財務局及印度支那銀行

ニ邦人顧問又ハ連絡官派遣方容認センムルニ努ム

行政部門ニ對シテハ必要ナル範圍ニ於テ邦人顧問、連絡官又

ハ技術者派遣方容認センムルニ努ム

六 佛印ニ對スル必需物資ノ供給ニ付テハ出來得ル限り努力ス

備考 必要ニ應シ佛印ノ主權尊重及領土保全再確認方考慮

スルモトス

外務省

理由説明

政府大本營連絡會議ハ佛印ニ付テハ既定方針ヲ遂行スル旨決定セ
 ルノミナル處一旦南方作戰勃發シ、佛印ガ其ノ基地トナル場合現
 在ノ佛印ニ於ケル帝國ノ發言權換言セハ佛印ノ帝國ニ對スル協力
 程度ニテハ我方戰爭遂行上支障ヲ來スベキハ明ナリ故ニ我方戰爭
 遂行上支障ナカラシメントセハ何等現在以上ノ措置ヲ執ラザルベ
 カラズ而シテ其ノ爲ニハ佛印ヲシテ帝國ト共同戰線ヲ結成セシム
 ルヲ最上トスルモ之ハ目下ノ處不可能事ト認メラルヲ以テ戰爭
 遂行上必要ナル最少限ノ協力ヲ爲サシムルニ努メサルヘカラス、
 仍テ其ノ爲外交上能フ限りノ努力ヲ爲スコト必要ナルカ之モ必ス
 成功スルト見ルヲ得ス然ラハ此ノ場合佛印ノ協力ヲ斷念シ現状ノ
 備立キ廢入リヲスルヲ得ルヤヲ考フルニ之亦不可能ト見サルヘカ
 ラス故ニ最後ノ手段トシテ我方ニ於テ必要ナル措置ヲ強行スルヲ
 要スヘン右ハ佛印ノ同意ヲ得スニテ我方獨自ニテ措置セントスル

0045

外務省

モノナルモ形式上ハ飽ク迄佛印ト協力ノ上之ヲ行フノ形ヲトルコ
 トトス此ノ場合佛印ハ主權侵害トシテ我方ニ抗議シ來ルヘキコト
 明白ナルモ右ハ共同防衛上致方ナキコトヲ説得シ佛印側ノ積極的
 抵抗ヲ爲サシメサルハ勿論消極的抵抗モ混亂サシメサル様施爾ス
 ルヲ要ス、然モ尙佛印ニ混亂ヲ來サシムルコトアリトスルモ止ム
 ヲ得サルコトナルヘン

0046

外務省

24

十一月十三日連絡會議決定「帝國國策遂行要領」
關聯スル對支措置ニ基キ國際情勢急轉ノ場合支
那ニ於テ執ルヘキ措置
一 在支英國租界ニ對シテハ下令ト共ニ所要ノ兵力ヲ進駐シ我カ占領
下ニ之ヲ把握ス但シ努メテ現機構ヲ利用シ之カ運営ニ當ルモノトス
ニ上海共同租界及北京公使館區域ニ對シテハ下令ト共ニ兵力ヲ進駐
セシムルモ右進駐ニ當リテハ所要ノ限度ヲ越ユルコト無ク努メ
テ靜謐ヲ旨トシ能ク限リ混亂動搖ヲ生セシメサル様措置スルト
共ニ帝國領導下ニ努メテ現有機構、施設及人員竝ニ支那側等ノ
各種機關ヲ利用シテ諸般ノ圓滑ナル運営ヲ續行セシムルモノトス
廈門共同租界ニ付テハ右ニ準スルモノトス

十一月十三日連絡會議決定「帝國國策遂行要領」
關聯スル對支措置ニ基キ國際情勢急轉ノ場合支
那ニ於テ執ルヘキ措置

外務省

0047

25

25

一 佛國租界ニ對シテハ差當リ兵力ヲ進駐セシメス事態ノ推移ニ即應
シ我方ヨリ租界當局ニ對シ所要ノ協力強化ヲ要求スルモノトス
今後ノ情勢如何ニ依リテハ佛國側ノ同意ヲ得タル上兵力ヲ進駐セ
シム
一 敵國系權益ノ處理ハ原則トシテ帝國自ラ之ヲ行フ
右處理ニ當リテハ我方施策ト併行シ別ニ國民政府ヲシテ所要ノ聲
明ヲ發セシムル等中央政府トシテノ同政府ノ立場ヲ保持セシム
如ク努ムルモノトス
一 海關ニ關シテハ現機構ヲ保全シ努メテ其ノ機能ヲ停止セシメサ
如ク措置スルモノトス
國民政府ヲシテ適時邦人主席稅務司ヲ總稅務司ニ任命セシメ

外務省

0048

務司署ヲ接收セシムルト共ニ海關全體ニ亘リ所要ノ敵性職員ヲ排
除シ帝國ノ掌握下ニ於テ經濟施策強化ニ寄與セシムルモノトス
六 郵政ニ關シテハ國民政府ヲシテ所要ノ敵性職員ヲ排除セシムル
郵政機能ノ圓滑ナル運行ヲ阻害セシメサル様留意スルモノトス但
シ郵便ハ軍ニ於テ所要ノ檢閲ヲ實施ス
七 英米蘭人竝ニ其ノ權益ハ努メテ公正ニ之ヲ取扱ヒ我方監視下ニ於
テ其ノ逃散ヲ防止スルト共ニ之カ利用ニ努ムルモノトス
八 英米蘭ノ外交官及領事官竝ニ大公使館及領事館ニ對シテ其ノ特
權ヲ認メス其ノ職務ヲ停止セシム
國民政府ヲシテ帝國ト同政府トノ關係及未承認等ヲ理由ニ我方
準ニ適宜措置セシム

0049

外務省

九 帝國ノ開戦ニ當リ國民政府ハ差當リ之ヲ參戰セシメス事實上帝國
ト緊密一體ノ施策ヲ行ハシム
十 國民政府ヲシテ我方ト緊密ナル協力ノ下ニ世界長期戦ニ對處ス
キ帝國ノ負擔輕減ニ寄與セシムル爲既定方針ニ則リ國民政府ヲ育
成強化シ以テ其ノ自主的活動ヲ誘導促進スルニ努ム
十一 國民政府ヲシテ今次戦争ノ眞意議ヲ一般ニ徹底セシムル爲帝國
ト緊密ナル協力ノ下ニ啓蒙宣傳ニ努メシムルト共ニ極力民生ノ安
定ニ力ヲ致シテ一般官民ノ動搖ヲ防止シ進ンテ民心ヲ把握セン
ル様措置ス
十二 對支經濟施策ニ當リテハ我方自給圈ニ於ケル綜合經濟力ノ保持
増進ヲ目標トシ現地生産力ノ活用、地場資本ノ誘導、必需物資ノ

0050

外務省

増産獲得等ニ重點ヲ置キ之カ爲必要ナル各般ノ措置ヲ講スルモ

トス

備考

前議項中國民政府ト關係アルモノニ付テハ事前ニ同政府ト緊密ニ連絡スルモノトス

外務省

0051

第一方針

佛印ニ對シテハ既定方針ニ依リ既存條約關係ニ基ク日佛印間ノ特殊緊密關係ヲ益々増進セシムル建前ヲ執ルコトトシ且佛印軍ニ依リ軍事上ノ積極的協力ヲ期待セザルモ帝國ノ戰爭遂行竝ニ軍ノ策戰及安全ノ必要上佛印側ヲシテ飽ク迄自主的ニ我方ニ協力セシムルコトトス。但シ英米側ヲシテ出來得ル限り佛印ヲ敵國トシテ取扱ハンメザル如ク措置スルモノトス。

第二要領

一 重慶領事ニ對シテハ戰爭開始前領外退去方佛印側ニ要求スルト共ニ我方トシテ右ニ必要ナル措置ヲ行フ。
二 英米領事ニ對シテハ戰爭開始ト同時ニ之カ通信阻止方佛印側ニ交渉シ且我方トシテ右ニ必要ナル措置ヲ執ルト共ニ以後佛印側ヲシテ之カ保護取締ヲ爲サシム。
三 佛印領内ノ治安維持ハ原則トシテ佛印警察當局ニ委ヌヘキモ

外務省

0052

我警備軍ト佛印警察當局トノ緊密ナル協力ヲ實現セシムル爲
佛印警察ニ我方ヨリ顧問又ハ連絡官派遣方承認セシム
ニ通信及運輸ニ對スル佛印側ノ便宜供與ニ付テハ出來得ル限リ
佛印側ノ立場ヲ尊重シツツ我方要求ヲ承認セシム
金融上ノ便宜供與ノ爲佛側ト交渉シ且財務局及印度支那銀行
ニ邦人顧問又ハ連絡官派遣方承認セシムルニ努ム
行政部門ニ對シテハ必要ナル範圍ニ於テ邦人顧問、連絡官又
ハ技術者派遣方承認セシムルニ努ム
六佛印ニ對スル必需物資ノ供給ニ付テハ出來得ル限リ努力ス
備考 必要ニ應シ佛印ノ主權尊重及領土保全再確認方考慮
スルモノトス

0053

理由説明

政府大本營連絡會議ハ佛印ニ付テハ既定方針ヲ遂行スル旨決定セ
ルノミナル處一旦南方作戰勃發シ、佛印ガ其ノ基地トナル場合現
在ノ佛印ニ於ケル帝國ノ發言權換言セバ佛印ノ帝國ニ對スル協力
程度ニテハ我方戰爭遂行上支障ヲ來スベキハ明ナリ故ニ我方戰爭
遂行上支障ナカラシメントセハ何等現在以上ノ措置ヲ執ラザルベ
カラズ而シテ其ノ爲ニハ佛印ヲシテ帝國ト共同戦線ヲ結成セシム
ルヲ最上トスルモ之ハ目下ノ處不可能事ト認メラルヲ以テ戰爭
遂行上必要ナル最少限ノ協力ヲ爲サシムルニ努メサルヘカラス
仍テ其ノ爲外交上能ク限リノ努力ヲ爲スコト必要ナルカ之モ必ス
成功スルト見ルヲ得ス然ラハ此ノ場合佛印ノ協力ヲ斷念シ現狀ノ
儘泣キ寝入りヲスルヲ得ルヤヲ考フルニ之亦不可能ト見サルヘカ
ラス故ニ最後ノ手段トシテ我方ニ於テ必要ナル措置ヲ強行スルヲ
要スヘシ右ハ佛國ノ同意ヲ得スシテ我方獨自ニテ措置セントスル

0054

82

モノナルモ形式上ハ飽ク迄佛印ト協力ノ上之ヲ行フノ形ヲトルコ
 トトス此ノ場合佛側ハ主權侵害トシテ我方ニ抗議シ來ルヘキコト
 明白ナルモ右ハ共同防衛上致方ナキコトヲ説得シ佛印側ハ積極的
 抵抗ヲ爲サンメサルハ勿論消極的抵抗モ混亂サシメサル様施策ス
 ルヲ要ス然モ尙佛印ニ混亂ヲ來サシムルコトアリトスルモ止ム
 ラ得サルコトナルヘシ

外務省

0055

REEL No. A-0231

0034

アジア歴史資料センター

参考

極秘（國家機密）

（昭和十七年十月十五日記）

日華基本條約ノ内容

- 第一 基本條約關係
- 第二 協議書類關係

第一 基本條約關係

基本條約、昭和十四年十二月三日上海ニ於テ日支間ニ作ラレタ日支新關係調整ニ關スル協議書類ト稱スル複雑多岐ニ亙ル取リ極メニ基イテ寧ロ其ノ重要部分ヲ引キ拔キテ條約ノ形ニ作ラレタモノデアル。基本條約締結ニ依ツテ國民政府ハ支那政府トシテ帝國ニ依リ正式ニ承認セラレ而シテ今日附日滿華三國共同宣言ニ依ツテ滿洲國モ之カ承認ヲナシタ譯テアル。

基本條約關係ノ文書ハ(一)條約(二)附屬文書ヨリ成リ附屬文書ハ(イ)附屬議定書及(ロ)附屬議定書ニ關スル日華兩國全權委員間了解事項ヨリ成ツテ居ル。尙直接關係ノ文書トシテ日滿華共同宣言ノ存在ハ前述ノ

105
通りテアル。基本條約ニハ附屬祕密協約ト附屬祕密約定トノ外祕密
交換公文甲及同乙トカ存在スル
以下其ノ内容ニ付テ説明スル

昭和十五年十一月卅日支間ノ基本條約ハ其ノ前文ニ於テ「兩國相
互ニ其本然ノ特質ヲ尊重シ東亞ニ於テ道義ニ基ク新秩序ヲ建設スル
ノ共同ノ理想ノ下ニ善隣トシテ緊密ニ相提携シ以テ東亞ニ於ケル恒
久平和ヲ確立シ」云々トノ大目的ヲ宣言シテ居ル。其ノ趣旨ヲ實行
スル爲メニ第一條ニ於テ相互ニ主權及領土ヲ尊重シツツ政治、經濟
文化等各般ノ事柄ニ共助スヘキヲ約シテ居リ第二條ニ於テ防共ニ關
スル共同動作ヲ規定シテ尙之カ爲メニ民國ハ日本軍ノ蒙疆及華北ノ

外務省

0058

106

一定ノ地域ニ駐屯スルコトヲ認メテ居ル。防共ハ從來主義ノ問題ト
シテ取扱ハレテ居ル問題テアツタカ茲ニ政治軍事上恰モ蘇聯ニ對ス
ル問題トシテ取扱ハレテ居ルノハ注意ヲ要スル第四條ニ於テ治安維
持ニ關スル共同責任ヲ規定シテ之カ爲メ必要ノ駐兵地域等ニ關シテ
ハ別ニ協議決定スルコトトナツテ居ル第五條ニ於テ「從來ノ慣例
ニ基キ又ハ兩國共通ノ利益ヲ確保スル爲メ艦船部隊ヲ民國領域内ニ
於ケル特定地域ニ駐留セシムルコトヲ規定シテ居ル。第六條ニ於テ
ハ經濟提携ニ付テ資源ノ開發通商ノ振興、物資ノ需給及産業、金融
交通、通信ノ復興發達ノ諸問題ニ付テ規定シテ居ル。最後ニ第七條
ニ於テ帝國ハ漸次治外法權及租界ノ返還ヲ行フコトトシ中國ハ居住
營業ノ爲メ内地開放ヲ行フコトヲ約束シテ居ル

外務省

0059

元來基本條約ハ全體トシテ一貫シタル解釋ヲナスコト困難デアツテ
 特ニ永久的の規定ト一時的ノ規定トノ區別カ困難デアル。右ハ戰爭下
 ニ於ケル非常時局ノ際ノ條約トシテ差當ツテ重要ナ事項ヲ抽出シテ
 作ツタ結果ト認メラルルノテアル。此點カラ見テ右條約ハ一時的若
 ハ中間的ノ存在トモ見ラレル譯デアル。本條約ノ目的ヲ達成スル爲
 メニ尙將來所謂協議書類等ヲ基礎トシテ補足的ニ約定ノ締結スヘキ
 コトヲ第八條ニ規定シテアル

三

附屬議定書ハ第一條及第二條ニ於テ戰爭行為續行中ノ特殊事態及其
 間ニ於ケル事態ノ調整ニ付テ規定シ第二條ニ於テ戰時終局ノ際ノ撤
 兵ハ治安維持確立ト共ニ三年以内ニ行フコトヲ規定シ第三條ニ於テ

日本國臣民ノ蒙リタル損害補償ト支那難民救濟ニ付テ規定シテ居ル
 カ何レモ感念上明ニ一時的事項ニ付テ設ケタル取極メテナル
 而シテ右附屬議定書規定ノ事項ノ實行ニ關シテハ了解事項ナルモノ
 ヲ作成シテ支那側ニ各種ノ公平ナル保障ヲ與ヘテ居ル

四

以上ノ如ク日華基本條約ノ規定ハ實ニ複雑多岐ニ亘ツテ居ルカ右條
 約ト同一日附ヲ以テ發表セラレタ日滿華共同宣言ナルモノハ右條約
 ノ主旨ニ付テ全般的解釋ヲ與ヘテ居ル點ハ重要デアル。即チ同共同
 宣言ハ「主權及領土ノ尊重ニ互惠ヲ基調トスル三國間ノ一般提携就
 中善隣友好、共同防共及經濟提携ノ實ヲ擧クヘキコトヲ宣言シテ居
 ルノテアル。獨立自主ノ立場ト互惠平等ノ建前トヲ堅持セルコトハ

注目ニ價スル

五

基本條約ニ付テハ秘密取極メカアソテ其中附屬秘密協約ナルモノニ於テ基本條約第五條ニ關聯シ艦船部隊ノ駐留權及内水航行權ノ供與並華南沿岸ノ特定島嶼及之ニ關聯スル地點ニ於テ緊密ナル軍事上ノ協力ヲ行フコトヲ規定シ更ニ厦門及海南島等ニ於テ國防上必要ナル資源開發ヲ約束セシメテ居ル

而シテ附屬秘密協定ナルモノニ依ソテ外交ヲ軍軍上ノ協力ニ付テ規定シテ居ル

更ニ又秘密交換公文甲ニ於テ第一蒙疆ニ付第二華北政務委員會及其ノ運用ニ付テ第三揚子江下流地域及新上海ニ付テ第四海南島及附近

外務省

ノ諸島嶼、厦門第五日本人顧問ノ招聘ニ付テ支那側ラシテ難解ナル約束ヲナリシメ帝國ノ特殊權益ヲ設定シテ居ル

次ニ交換公文ノ乙ニ於テ戰爭行為繼續期間中其目的完遂ニ付積極的協力ヲナスヘキ義務ヲ中國政府ニ負ハンムルコトヲ重ホテ規定シテ居ル

第二 協議書類關係

基本條約全般ノ解釋ニ一層ノ複雜性ト難解性トヲ與フルモノニ「議事錄拔萃」ナルモノカアル。右ハ第十五回正式會議（昭和十五年八月二十八日）ノ議事錄ノ拔萃ノ形ニナソテ居ル。斯ル方式ニ依ソテ約束ヒラレタ項目中決議ノ第一ハ基本條約締結ノ基礎的資料トナソ

外務省

147
タ「日支新關係調整ニ關スル協議書類」即チ所謂「協議書類」(昭和十四年十二月三十日上海ニ於テ日支間ニ作製)ノ效力問題ニ付テテアツテ右協議書類ハ今後モ效力ヲ存續シ尙引續キ其内容ヲ具體化シ更ニ約定ノ形式トナスヘキコトヲ決議トナシテ居ル次第デアル。要スルニ協議書類ハ今後モ其ノ效力ヲ有シ其内容ニシテ今回約定ノ形トナラナカソタモノハ將來更ニ約定ノ形ニ直ス様ニスルト云フ事アル。斯クノ如クシテ協議書類ノ内容及地位ハ複雑ナル基本條約關係ノ一切ノ文書ト共ニ相關聯シテ日支ノ條約關係ヲ一層紛糾ヒンヌテ居ルノミナラス基本條約其ノモノヲ寧ロ弱體化センヌテ居ル。議事錄拔萃ノ第三ノ決議ハ基本條約及附屬文書ノ作製セラレタル基礎的原則ヲ示シタモノナリ。

外務省

0064

112

「互恵ヲ基調トスル日華ノ一般提携」中善隣共同防共、經濟提携原則ノ設定
「華北及蒙疆ニ於ケル日華ノ緊密ナル國防上及經濟上ノ合作地帯」ノ設定
防共ヲ目的トスル蒙疆ニ於ケル軍事上及政治上ノ特殊地位ノ設定
揚子江下流地域ニ於ケル日華間ノ緊密ナル經濟上ノ合作ノ具現
華南沿岸特定島嶼ニ於ケル日華間ノ緊密ナル軍事上ノ合作ノ具現
ノ四項目ヲ擧ケテ居ル。右ハ何レモ條約又ハ附屬文書ニ規定ノアル點テアルカ特ニ議事錄拔萃ヲ以テ此ノ四點ヲ條約締結ノ基礎的原則トナシタ事ヲ決議セルコト條約全體ノ解釋上重要ナル點テアツテ從ソテ其ノ全文ヲ茲ニ掲クルコトトシタ

外務省

0065

決議ノ第三ハ條約所定ノ關係ハ日華特有ノ關係ヲアツテ最惠國約款ノ適用範圍外テアルコトトシテ居ル
 決議ノ第四ハ撤兵ハ治安確立ヨリニケ年以内ニ行ハルヘク右「治安確立」ノ認定ハ「社會秩序カ能ク善隣友好的和平状態ニ恢復スルニ至レル」コトヲ指スモノナルモ日本側ニ於テ治安不安定ニ名ヲ藉リテ故意ニ撤兵ヲ長引カシメントスルノ意思ナキコトノ保障ヲ與ヘテ居ル
 決議ノ第五ハ條約第八條ニ依ツテ將來締結セラルヘキ約定トハ軍トノ間ニ締結セラルヘキ軍事協定ヲモ包含セラルヘキコトヲ決定シテ居ル

外務省

0066

已ニ協議書類カ有效ニ存續スルモノトスレハ其内容ニ付テ檢討ヲ要スル。其内容中已ニ基本條約及附屬文書ニ取リ上ケラレタモノニ付テハ協議書類ハ此點ニ付テハ單ニ條約等ノ解釋ノ爲メニ役立ツニ過キヌ。問題ハ基本條約關係ニ取リ上ケラレヌ部分ニ付テテアル。協議書類ハ昭和十四年十二月卅日上海ニ於テ作製セラレ日本文ヲ以テ本文トセラレテ居ル。其ノ目次ハ左ノ通りテアル

日支新關係調整要綱

別紙第一(日支新關係ノ調整ニ關スル基本原則) (一)、(二)、(三)、(四) 者ノ附(七)モノ)

別紙第二(日支新關係調整ニ關スル具體原則)

祕密諒解事項

外務省

0067

115

- 第一 新中央政府ト既成政府トノ關係調整事項
- 第二 金融・財政關係事項
- 第三 經濟關係事項
- 第四 交通關係事項
- 第五 揚子江下流地帯ニ於ケル日支協力關係事項
- 第六 日本人顧問ノ職員招聘・採用關係事項
- 第七 主權尊重原則實行ニ關スル支那側要望ニ對スル回答關係事項
- 第八 雜件

三

日支新關係調整要綱本文ハ(一)日支間ニ新ニ國交ヲ調整スル(トコト)

外務省

0068

116

既成政府ノ辯シタル事項ノ繼承及調整(三)事變繼續中特殊事態ノ存在ヲ承認スルコトヲ宣言シテ居リ、

別紙第一日支新關係調整ニ關スル基本原則ハ議事錄拔萃決議ノ三ニ相當シ

別紙第二日支新關係調整ニ關スル具體原則中ニ於テ第一善隣友好ノ原則ニ關スル事項ヲ一ニ於テ支那ハ滿洲國ヲ承認シ日本ハ支那ノ領土及行政ノ保全並ニ主權ノ獨立ヲ尊重シ日滿支三國ハ新國交ヲ修復スルコトヲ約シニ於テ互ニ親善ヲ破ルカ如キ政治・外交・教育等ヲナリサルコトニ相互提携ノ外交ヲ行ヒ四文化ノ融合等ニ努メ且日本ハ漸次租界治外法權ノ返還ヲ考慮スルコトヲ約シテ居ル

第二共同防共ノ原則ニ關スル事項中ニ於テ一防共ニ關シテ提携協力

外務省

0069

シニ之カ爲メニ北支及蒙疆ニ於ケル日本ノ駐兵權ヲ認メ、之カ爲メ
 鐵道、航空、通信、水路等ニ關シ日本ノ軍事上ノ要求ニ應ジスルコト
 ラ定メテ居ル
 第三經濟提携ノ原則ニ關スル事項中ニ於テハ北支蒙疆ニ於ケル資源
 ノ開發ニ關スル協力ニ產業ニ關スル日本ノ援助、財政、金融ニ關ス
 ル日本ノ援助、通商交易ニ關スル協力、交通、通信、氣象ニ關スル
 協力ハ新上海建設問題等ヲ定メテ居ル
 更ニ第四共通ノ治安維持ニ關スル協力並撤兵ニ關スル事項中ニ於テ
 撤兵完了期ヲ二年トシ治安維持ノ爲駐兵スル地域等ニ付テ協議
 スルコト、艦船部隊ノ駐屯權、鐵道等ニ對スル軍事上ノ要求等ニ關
 シテ規定シ

外務省

0070

第五其ノ他ノ事項中ニ於テハ顧問備聘ノコトニ難民救済ノコト、日
 本人ノ損害賠償ノコト等ヲ定メテ居ル
 以上ノ各項ハ何レモ基本條約ノ各條ニ抽出セラレテ居ルモノカ多イ
 從ツテ協議書類ノ之等ノ部分ハ基本條約文ヲ解釋スル上ニ之ヲ點檢
 スルコトカ必要缺クヘカラサル次第デアル
 四
 秘密諒解事項ノ第一項目タル新中央政府ト既成政府トノ關係調整要
 領ノ中第一北支臨時政府トノ關係規定ニ關シテ注意スヘキ點ヲ左ニ
 摘記セル
 一北支ノ定議トシテ北支トハ内長城線（ヲ含ム）以南ノ河北省及山
 西省並ニ山東省ノ地域トストセラレテ居ル。從ツテ蒙疆ハ内長城

外務省

0071

線（ヲ含マズ）以北ノ地域トナル譯テアル。

ニ臨時政府ノ後ニ北支政務委員會ナルモノヲ設クルコトトシ、其ノ
 權限及構成ニ關スル難解ニシテ複雑多岐ナル規定ヲ設ケテアル。

第二次ニ維新政府トノ關係規定ニ於テハ右政府解消ニ依リテ生スル
 過渡的規定ヲ初メ楊子江下流地區ノ經濟合作機關（經濟協議會）及
 新上海問題ヲ掲ケ

第三更ニ蒙古自治政府トノ關係ニ付テ規定ヲナシ、之ニ對シテ高度
 防共自治權ヲ認メシメ

第四廈門ニ特別市設置

第五海南島及附近ノ島嶼ヲ一省トナシ軍事及經濟提携ニ關シ日支協
 カスヘキヲ規定シテ居ル。

外務省

0072

諒解事項第二金融財政關係ニ於テ一聯銀ニ華興商業銀行三軍票ニ付
 テ規定シ

諒解事項第三經濟關係ニ於テ合辦會社ニ關スル措置ニ付テ帝國大使
 ト協議スルコト及貿易統制ニ關シ規定シ

諒解事項第四交通關係ニ於テ航空鐵道海運水運及通信ニ關シ日支協
 力等ニ付テ規定シ

諒解事項第五楊子江下流地帯ニ於ケル日支協力關係事項ニ於テ所謂
 日支經濟協議會及上海特別市其イ他ニ關シ支那側ノ執ルヘキ措置ニ
 關シテ混雜セル規定ヲシテ居ル。

諒解事項第六日本人顧問、職員招聘採用關係事項ニ於テ技術顧問連
 絡專員ノ招聘ニ付テ更ニ又教授教官ノ招聘ニ付テ甚ダシク多岐ニ亘

外務省

0073

121

リテ規定セラレテ居ル。

諒解事項第七主權尊重原則等ニ關スル中國側要望ニ對スル回答關係事項ニ於テ政治ニ付テハ

第一中央政府ハ政治顧問ヲ招聘セス協議連絡ヲ要スル事項ハ日本帝國大使ヲ通シテ行フコトヲ明定シ

第二日本軍ト省政府・特別市政府・縣政府・普通市政府等トノ協力ニ付テハ互ニ交渉專員ヲ通シテ行フコトトシ

第三各縣宣撫班ハ速ニ解散スルコトヲ規定シ

次ニ軍事ニ付テハ

第一支那復歸軍隊ノ駐屯區域

第二第三國人タル軍事專家招聘ニ付テハ日本側ト連絡スルコト

0074

外務省

122

第三兵器製造工場ニ技師招聘ニ關シテ規定シテ居ル。

更ニ經濟ニ付テハ

第一軍管理ノ工場・鑛山及商店ノ移管ニ關シテ

第二日支合辦事業ノ調整整理ニ付テ

第三合辦事業ノ出資割合

等ニ關シ重要ニシテ詳細ナル規定ヲナシ其大部分ハ基本協定中ニ包含セラレテ居ル。

更ニ又財政ニ關シテハ支那財政ノ獨立尊重ヲ約シ

第一稅收機關

第二上海海關收入及關稅剩餘

第三關稅收入保管

0075

外務省

127

第四 外債及賠償金ノ基金保管

第五 統 稅

第六 鹽 稅

ニ付テ極メテ重要ナル約束ヲ期定シテ居ル。

最後ニ「其ノ他」ニ於テ

一長江開放

ニ京滬鐵道通行證首都停車場ノ検査

ニ付規定カアル。

諒解事項第八雜件中ニ於テ更ニ前記諒解事項中

第一 諒解事項 第一 既成政府トノ關係中ノ規定事項

第二 支那軍隊及警察ノ配置及之ニ對スル武器ノ供給

外務省

0076

128

第三 諒解事項第六 顧問招聘ノ問題

第四 厦 門

第五 海南島等

ニ關シ更ニ規定ヲナシテ居ル

外務省

0077

参考、二

東條總理大臣陳特使會談要録

昭和十八年四月九日午後五時三十分至同六時三十分

於首相官邸（星野書記官長、清水書記官同席）

一、陳特使ノ挨拶

陳 今回命ヲ奉シ特使トシテ訪日セルトコロ御優遇ヲ賜リ感激ニ堪
エス貴國ハ去ル一月九日租界ノ還付及治外法權ノ撤廢等ヲ約定セ
ラレタルカ還都三周年記念日ニハ逸早く貴國ノ專管租界還付ヲ實
施セラレ且ツ北京公使館區域及厦門共同租界ノ回收ニ協力セラレ
タリ茲ニ特ニ謝意ヲ表スル次第ナリ尙中國ニ於テハ既ニ人力物力
ノ一切ヲ擧ゲテ大東亞戰爭ニ寄與セント決心シ居ルニ付テハ今後

外務省

0078

如何ニシテ人力ヲ活用シ物カヲ運用シテ其ノ目的ヲ達成スヘキヤ
首相並ニ各大臣ノ御教示ヲ仰キタシ

二、對華新政策實施後ノ情況

陳 先ツ日本ノ對華新政策實施後ノ情況ヲ御報告致度シ

日本カ一月九日對華聲明ヲ發表スルヤ全國國民ハ大ニ感奮シ殊ニ
三月中旬經濟統制ヲ中國側ニ委ネラレ三月三十日ノ還都記念日ニ
租界ノ還付實施セララルヤ中國民衆ハ異常ナル衝動ニ驅ラレタリ
其ノ結果（一）從來厭々ナカラ物資ヲ供出シ居リタルモノモ參戰以後
ハ右ハ中國側當然ノ義務ナルノミナラス一種ノ名譽ナリトサヘ考
フルニ至レリ此ノ氣持ノ變化ハ中日兩國ノ前途ニ極メテ良好ナル
影響ヲ與フルモノナリ（二）物資統制ヲ中國ノ自辯ニ委ネテヨリ物價

外務省

0079

ハ一二不合理的ニ暴騰セルモノヲ除キ全般的ニハ漸次低落ノ傾向ヲ現出セリ(不合理的暴騰ヲ見タル品種ニ付テハ目下徹底的ニ調査中ナリ) 曰特ニ喜フヘキハ上海ニ於ケル工場ノ復興ニシテ最近工場主ノ聯合ニ依リ中央儲備銀行ヨリ五億元ノ資金ヲ借受ケ復工ノ準備ニ取掛ルコトトナレル

新政策ノ實施日尙淺ク經濟統制ノ機構モ尙完備セサルニ拘ラス其ノ效果右ノ如ク極メテ見ルヘキモノアリ人心亦從ツテ安定スルニ至レリ若シ今後着々之ヲ進ムルニ於テハ今後必スヤ驚クヘキ發展ヲ見ルニ至ルヘキコトハ斷言シテ憚ラサル所ナリ

右ニ關シ重光大使ノ指揮セラルル大使館及現地ニ於ケル貫國陸海軍當局カ何レモ首相ノ理想ト政策トヲ體シ國民政府側ノ豫期以上

0080

外 務 省

ノ努力ヲ傾注セラレツツアルコトヲ特ニ首相ニ報告スルト共ニ政府並國民ヲ代表シテ之ニ對スル深甚ナル謝意ヲ表スル次第ナリ

尙新政策ノ對外的ニ與ヘタル影響ヲ推スヘキ材料トシテ最近二ツノ「ニュース」ヲ申上クヘシ

重慶側ハ蔣介石ノ機要秘書ノ職ニアル劉某ヲ派遣シ來リ日本側及國民政府側ノ諒解ヲ得タント申出テタリ其ノ言フ所ニ依レハ重慶側ニ於テハ世界戦争カ假令如何様ナル情況ニテ終結スルトモ結局中國ト日本トハ諒解セサルヘカラル立場ニアリ即チ萬一英米カ勝ツコトアリトスルモ蘇聯ニ備フル爲メ歐洲ニテハ獨逸ヲ又東亞ニ於テハ日本ヲ殘存セシムヘキコトハ明カナリトノ見透シニ基クモノナル由ナリ

0081

外 務 省

更ニ一ツノ「ニテリス」ハ共產黨ニ關スルモノナルカ最近延安ヨリ代表ヲ派遣シ來リ連絡ヲ求メントシツツアリ
要スルニ日本ノ新政策カ遂行セラレ中日關係カ漸次明朗化スルニ伴ヒ和平運動ニ從事シツツアル吾々ノ氣持ハ益々確固トナリ之ニ反比例シテ彼等ノ氣持カ動搖スルコトハ言フ迄モナシ

日華基本條約ノ改訂ニ付テ

陳 此ノ際自分ハ一個ノ希望ヲ述ヘタシ、ソレハ日華基本條約ヲ新政策實施後ノ事態ニ照シ變ニ貴國カ既存ノ約定ニ付テモ中日關係ノ發展ニ伴ヒ之カ改廢ヲ考慮スヘキ旨聲明セラレタル趣旨ニ基キ新タニ之ヲ改訂シテハ如何ト云フコトナリ尤モ之ニ關シ豫メ諒解ヲ得タキコトハ(一)右ハ全ク自分個人ノ意見ニシテ國民政府ヲ

外務省

代表セル意見ニ非サルコト(二)右ハ中國側ヨリノ要求トシテ持出シタルモノニ非サルコト(三)中國側一方的ノコトヲ考ヘテノ意見ニ非ス中日兩國ノ爲メ將又東亞全局ヲ考ヘテノ希望ナルコト是レナリ抑モ日華基本條約締結當時ハ今日トハ異ナレル情勢下ニアリタリ即チ(一)當時ハ國民政府還都勿々ノ際ニテ一舉ニ理想的ノ條約ヲ締結スルコトハ困難ナリシコト(二)英米ノ勢力尙殘存シ日本ハ之ニ對抗スル爲中國ニ於テ種々ノ據點ヲ設クル必要アリタルコト(三)日本ノ對華物資要求カ極メテ切實ナリシコト等是レナリ然ルニ此等ノ情勢ハ大東亞戰爭ニ依リ著シク變化セリ(一)先ツ中國ノ參戰ニ依リ中日兩國ハ共同ノ立場ニ立チ兩國國民ノ感情ハ恢復シテ歷史上空前ノ親善關係ニ入レリ(二)日本ノ華北駐兵ハ名目ハ防共ナレトモ實

外務省

質的ニハ防衛ナリ然ルニ今ヤ英米ノ勢力ハ既ニ一掃セラレ中國ト日本トハ生死ヲ共ニスル間柄ニアリ中國國內ノ防共ニ至リテハ中國自身之ニ當ルヲ可トシ蘇聯ノ脅威ニ對シテ共同作戰ニ出ツヘキハ固ヨリ當然ナリ(三)大東亞戰爭以後日本ノ資源ハ豊富トナリ支那ニ需ムルモノハ僅カニ棉花位ノモノトナレリ即チ基本條約ニ規定シアルカ如キ嚴重ナル規定ハ必要ナキニ至レルモノト考ヘタルハ次ニ華北ノ問題ナルカ華北ハ原來半獨立ノ如キ状態ヲ以テ今日ニ至レリ其ノ茲ニ至レルハ當時ノ實情ト希望トニ基クモノト謂フヘシ(一)實情トハ即チ事變後同地ニ臨時政府組織セラレ國民政府還都後モ其ノ既成事實ヲ存續セシメタルタメ一種ノ特殊状態ヲ呈スルニ至リシコト是レナリ(二)希望トハ日本側ニ於テ從來華北ノ防共ト

外務省

經濟合作トニ全力ヲ擧ゲサルヘカラル事情アリタル爲メ一種ノ特殊機構ヲ作り之カ運用ニ便セントノ希望ヲ指スモノナリ然レトモ一切ハ過去ノ歴史トナリ今ヤ中日兩國ハ直シク全体的ニ合作スヘキ時期トナレリ殊ニ南北對立ノ状態ヲ放任スルコトハ兩國國民ノ疑惑ヲ惹起セシムル點ニ於テ面白カラス自分ハ一昨年八月中央公論ニ論文ヲ發表セル際モ華北問題ヲ痛論セルコトアリ重光大使トモ本問題ニ付屢々意見ヲ交換シ大使ハ日本ハ決シテ中國ヲ分割牽制スルカ如キ意思ナシト言ヒ自分モ貴國カ根本的ニカカル考ナキコトヲ確信スルモノナルモ奈何セン現状ハ中央ト華北トノ政治、經濟、交通、金融等スヘテ別個ニシテ華北ハ宛然獨立國ノ如キ觀アリ日本ハ此ノ機會ニ直シク英斷ヲ揮リテカカル疑惑ヲ

外務省

133

一掃スヘシ況ンヤ中國ノ參戰ヲ見タル今日人力物力ヲ擧ゲテ日本ニ協力スル爲メニハ全國一體トナリ全面的ノ計劃ヲ立ツル必要アリニ於テオヤ、是レ特ニ首相ノ考慮ヲ求ムル所以ナリ

四日華基本條約ノ締結ト經濟、軍事協定ノ分離

陳 以上自分ハ基本條約改訂ニ對スル輪廓概念ヲ申述ヘ御參考ニ供シタル次第ナルカ具体的内容ニ付テハ今日申上クル意思ナシ

唯基本條約ノ修正ト云フ時ハ國民ヲ刺戟スル惧モアルヘキニ付寧ロ新タニ基本條約ヲ作ルト云フ建前ニテ手ヲ着クル方圓滿ニ進ミ得ヘキカト考フ尙先刻述ヘタル物資ノ問題ハ南方トノ交通關係上速カニ同地方ノ物資ヲ利用シ得サル實情ニアリ中國ヨリハ當分棉花以外ニモ石炭、糧食等需要ノ急ナルモノアルヘキニ付是等物資

0086

134

ノ供給ニ付テハ基本條約ノ外ニ一種ノ兩國間ニ於ケル戰時物資ニ關スル臨時協定ヲ締結セハ可ナルヘシ駐兵ノ規定ニ付テモ同様ナリ

三基本條約改訂ノ效果

陳 基本條約ノ改訂ハ如何ナル效果アリヤ、右ニ付テハ充分考慮スルカ今回ノ新政策實施ノ效果ニ顧ルモ條約改訂ノ效果ノ大ナルコトハ贅言ヲ要セサルヘシ殊ニ重慶ノ抗戰陣營ニハ如何ナル影響ヲ與フヘキヤ是レ一大問題ナリ從來自分ハ所謂重慶工作ヲ論議スル度ニ「吾々自身カ眞ニ和平地區内ノ民衆ヲ把握シ得ル自信アリ」此ノ自信ナクシテ重慶側ヲ握ルコトハ到底不可能ナリト言ヒ來レリ正直ニ告白スレハ自分ノ如キ還都以來三年間實ハ心中ニ此

0087

195

自信ナカリシカ參戰後始メテ確タル自信ヲ得タリ吾々カ自信ヲ得ルコトハ即チ逆ニ重慶側カ自信ヲ失フコトナリ曩ノ日華基本條約ハ重慶カ來レハ改訂スルト云フ腹ニテ作リシモノナルカ今度ハ重慶ノ來ルト否トニ拘ラス新タニ理想的ノ條約ヲ締結スルコト然ルヘシト考フ

以上述ヘタル基本條約改訂問題ハ日本ノ立場ヲモ考慮シ兩國双方ノ利益否東亞ノ立場ニ立チテ考ヘタル結果ナリ東亞ノ新情勢ニ照シ日支關係ヲ更ニ鞏固ナラシメントスル眞情ニ基キ首相ノ御參考迄ニ申上ケタル次第ナリ

外務省

0088

136

東條總理ノ應酬

總理 今回中國ノ參戰ヲ契機トシ日華兩國國民ノ關係益々親密ヲ加フルニ至レルハ喜ヒニ堪エス參戰ヲ決意シ且ツ之ニ伴ヒ國務ニ盡瘁シツツアル汪主席及國府幹部各位ノ努力ニ對シテハ感佩特ニ深シ其ノ後行政實施上種々ノ苦心ヲ拂ハレツツアルモノト察セラルル處日尙淺キニ拘ラス好結果ヲ擧ゲラレツツアルコトハ同慶ノ至ナリ延テ重慶側及共產黨ノ方面ニ迄影響ヲ與ヘ居レリトノ説明ヲ聞キ力強キ限リナリ今後トモ一層ノ努力ヲ期待スルモノナルカ日本トシテモ出來得ル限リ協力スル覺悟ナリ日本ノ對華政策ノ轉換ハ其ノ進行ニ伴ヒ日華間ノ條約ニモ觸ルコトトナルヘキ次第ハ御承知ノ通ナリ唯今ハ極メテ根本的ノ條約改訂ノ點ニ觸レタル御話ヲ

外務省

0089

聞キタル夫第ナルカ國民政府ノ意見ヲ代表シタルモノニ非ス個人
 的ノ意見ナリト言ハレタリ但シ自分ハ之ヲ國民政府要人ノ意見ト
 シテ深ク念頭ニ留メ置クヘン政府ノ内閣總理大臣トシテハ以上ノ
 如ク答フル外ナキモ吾々ハ同志トシテ現ニ偉大ナル時局ニ直面シ
 此ノ戰爭ニ勝ツ爲メ最善ノ力ヲ盡ス必要アリ之レカ爲メ古キヲ改
 メテ行クコト必要トアラハ改ムヘン要スルニ唯今ノ御提案ハ充分
 研究スヘン

政府ノ立場トシテモ斯カル意見カ國民政府ノ要人ヨリ出テタル以
 上検討シテ見ルヘン此ノ際オ互ニ最善ノ結論ニ到達シ戰爭ニ勝チ
 抜ク爲メニ努力致シタシ

尙貴方ニ於テモ更ニ検討セラレタキコトアリ

外務省

(一) 大東亞ヲ建設シ大東亞戰爭ノ完遂ヲ圖ルニ當リ蘇聯ノ脅威ヲ前
 提トシテ考慮スル要アリ即チ日華滿三國ハ牢固タル姿勢ヲ以テ
 之ニ對處スル必要アリト思惟セラルルカ此ノ點如何

(二) 假リニ唯今ノ如キ意見ヲ容レテ新事態ヲ構成セル場合國民政府
 ノ行政力ハ果シテ全國ニ滲透シ得ル自信アリヤ即チ吾人ハ國民
 政府カ四億ノ民衆ヲ率ビテ大東亞戰爭ニ寄與セラレ最善ノ努力
 ヲ盡サレンコトヲ期待スルモノナルカ果シテ可能ナリヤ

(三) 基本條約ノ問題ハ日本側ノ立場ヨリスレハ之カ取扱ヲ慎重ニス
 ル要アリ今回ノ新政策ノ實行ニ付テモ國內的ニハ相當ノ困難ア
 リタルカ漸ク之ヲ克服シテ今其ノ緒ニ着キタル所ナリ若シ此ノ
 問題ヲ中國側ヨリ正式ニ持出サルトキハ困難ニ逢着スヘン

外務省

189

七 陳特使ノ答辯

陳 唯今ノ閣下ノオ話ニ對シ簡單ニ申述ヘタシ

(一) 蘇聯ノ問題ハ英米ニ對スルト同様東亞ニ取リテ重大問題ナリ實
ハ中國參戰ノ際心中切カニ期シタルハ對蘇問題ナリ即チ日本ニ
協力スルノ途ハ今直チニ南洋等ニ出兵スルコトニ非スシテ他日
萬一ノ際蘇聯トノ接觸カ浦潮ヨリ新疆省ニ至レル際ニハ中國ハ
全力ヲ舉ケテ日本ト協力セントノ腹ナリ

(二) 國民政府ハ今日迄ハ其ノ治下ノ民衆ノ信賴スラ無カリシ狀態ナ
リ然ルニ參戰ヲ機トシテ國民ハ始メテ政府ヲ支持スルニ至レリ
吾々カ政府治下ノ民心ヲ把握シ得レハ今後之ヲ全國ニ及ホスコ
トハ決シテ不可能ニ非ス之レカ爲メ吾人モ一層ノ努力ヲ拂フ覺

外務省

0092

190

悟ナルコト勿論ナリ

(三) 基本條約問題ニ付中國側ヨリ話ヲ持出スガ如キコトハ絶對ニナ
シ此ノ點ハ特ニ御安心願ヒタシ本日ハ全ク總理ノ御參考迄ニ自
分ノ意見ヲ申上ケタルニ止リ假リニ之ヲ實行スルトスルモ日本
側ノ自發的措置トナシ其ノ時期、方法等ハ總理閣下ニ委任セス
ル譯ナリ尙中國側ニ於テハ政府ハ勿論民間ノ輿論界ニ於テモ斯
カル論議ヲ持出スコトハ有リ得ス又今日閣下御ノ話モ極秘トシ
テ他ニ漏ラササル様致度キ考ナリ

(清水書記官記)

外務省

0093

83

(機密) 國民政府ノ參戰問題ニ付テ

昭和十七年十一月一日清水記

一 參戰問題ノ經過

一 大東亞戰爭勃發當時國民政府ノ參戰問題論議セラレタルカ、我方ニ於テハ政府ノ方針ニ基キ大使館及總軍司令部ヨリ國民政府ニ對シテ參戰ヲ暫ク差控ヘ實際上日本ニ對シテ協力スルヲ以テ足ル次第ヲ申入レタリ

二 本年九月周佛海副院長訪日ニ際シ總理大臣及外務大臣ニ對シ國民政府參戰ノ要望ヲ提示セリ、其ノ際外務大臣ハ政府ニ於テ協議セル趣旨ニ基キ國民政府ノ參戰ハ其ノ各方面ニ及ホス影響ノ大ナルニ鑑ミ慎重考究ヲ要スル問題ニシテ、今遽カニ參戰スル必要ヲ認メサルモ、國際情勢ノ變化ニ伴ヒ之ニ即應スルノ準備ハ必要ナルニ付、現地日本當局ト連絡シ具體的研究ヲ進メ置カラルコト然ルヘシト告ケタリ。

外務省

0094

84

三 平沼有田永井特使來訪ノ際、汪主席ハ國民政府ノ參戰ハ政府治下軍官民ノ士氣ヲ鼓舞シ政府ノ結束ヲ堅カラシムル效果アルト共ニ現在國民政府側カ日本ニ對シ協力シツツアル軍需物資ノ供給モ正堂々ト行フコトヲ得重慶側カ國民政府ヲ以テ傀儡政府ナリト宣傳スル口實ヲ失ハシムル效果アリト述ヘ、參戰ノ有意義ナルコトヲ強調セリ。

二 國民政府ノ參戰要望ノ理由

國民政府側ノ參戰ヲ主張スル理由トシテ表面的ニ説明シアルトコロハ左ノ如シ

一 管下軍官民ノ士氣ヲ鼓舞スルコトヲ得。

二 日本ニ對スル物心兩方面ノ協力ヲ更ニ一層積極的ニ行フコトヲ得。

三 重慶側カ國民政府ヲ自シテ日本ノ傀儡ナリト爲ス宣傳ヲ封スルコトヲ得。

外務省

0095

而シテ、國民政府當局ハ參戰ニ依リ敵國權益ノ分ヶ前ニ預ラント
 スルカ如キ考ヘ之ヲ有セスト述ヘ居レリ。
 然レトモ以上ハ何レモ日本側ニ對スル説明ニシテ必スシモ其ノ眞
 意ヲ吐露セルモノト認ムヲ得ス。各方面ノ情報ヲ綜合スルニ參戰
 ヲ希望スル眞ノ理由ハ左ノ如キモノト見テ差聞ナン。
 一國民政府ハ各種ノ事情ニ依リ部内ノ意氣揚カラス意氣消沈ノ姿
 ニアルヲ以テ之ヲ引立ツルニハ參戰ノ如キ新ラシキ目標ヲ與フ
 ル必要アルコト。
 二現在國民政府ハ日本ニ對シ戰爭協力ニ努メツツアルモ參戰セザ
 ル以上大義名分トシテ其ノ協力ハ單ニ日本ヨリ要求セララルコ
 トヲ聽從スルト言フ形ニ止マリ之ニ對スル負擔苦痛ヲ解釋スル
 ニ由ナキコト。
 三外國權益ノ回收ハ支那近年ノ要望ナルカ、現在國民政府ハ參戰
 シ居ラサル爲メ其ノ分ヶ前ニ預ル能ハス、眼前ニ日本ノ爲ス儘

外務省

ニ任セ之ヲ傍觀スルノ外ナキコト。
 四國民政府ノ對外的地位ヲ幾分ニテモ高ムル爲メニハ參戰ヲ有利
 ト考フルコト。
 五國民政府カ正式ニ宣戰スレハ日本モ國民政府ヲ重シシ政治經濟
 上ノ強壓ヲ緩和シ、幾分ニテモ自由ヲ與フルニ至ルヘシト豫想
 シ居ルコト。
 六國民政府ノ參戰ト日本トノ關係
 (特ニ支那事變處理ニ關シ)
 國民政府ノ參戰ニ對シテハ政府ノ眞意ハ寧ロ敘上ノ如キモノニシテ之
 ニヨリテ支那一般民衆ハ要望タル自由ノ恢復又ハ商工業ノ復興ヲ
 圖ラントスルモノニシテ、斯クノ如クキシテ日本トノ眞ノ協力ヲ
 容易ナラシメントスルモノナリ。
 萬一參戰ニ依リ支那側トシテ何等獲ル所ナク今日以上日本ヨリ強
 壓ヲ加ヘラルルコトトナラハ全ク豫想ニ反スルコトトナリ、參戰

外務省

87

ノ結果却ツテ支那國民ノ失望ヲ招キ國民政府ヲ愈々窮地ニ迫込ムコトトナルヘク、而シテ今日ノ如キ窮境ニアル支那ノ社會狀況ニ鑑ミ支那上一般ノ對日感情ハ極度ニ惡化スルノ虞アリ。從ツテ日本カ國民政府ノ參戰ヲ機會ニ對支政策ノ一大進轉ヲ圖リ政治的ニハ敵國ノ在支權益ヲ出來得ル限り支那ニ還付スルハ勿論外國（日本ヲモ含ム）ノ權益ヲ整理シ不平等條約關係ヲ調整シ、支那ヲシテ東亞建設ノ一員タル資格ヲ認識セシムルト共ニ政治上ノ仰壓ヲ緩和シ經濟的ニハ今日行ハレ居ルカ如キ壓迫ヲ排除シ支那國民ヲシテ東亞解放ノ戰爭トシテ欣然之ニ協力セシムルノ工夫ヲ凝ラス用意ナカルヘカラス。若シ然ラスシテ漫然國民政府ヲ參戰セシムルカ如キハ支那問題ヲ一層惡化セシムルモノト言フヘク、萬一日本カ參戰ニ依リ一層國民政府ニ強壓ヲ加ヘ一層支那ヲ搾取セントスルナラハ其ノ結果ハ遂ニ支那問題ヲシテ破産セシムルニ至ルヘシ。

外務省

0098

88

國民政府參戰ノ件 昭一七一一一ニ局長
 一國民政府カ參戰ヲ要望スル理由ハ種々アルベキモ要之參戰ナル新事態ニヨリ(イ)國民ノ志氣ヲ鼓舞シ(ロ)國民ヲシテ進んで日本ノ戰爭遂行ニ協力スルノ決意ヲ醸成シ(ハ)斯クノ如クシテ現下見ルカ如キ國民ノ不滿乃至我不關焉の氣分ヲ一掃シ依テ以テ國民政府民心把握力強化ニ資セントスルモノナリト認メラル
 二國民政府ノ民心把握ハ取リモ直サズ帝國ノ支那民心ノ把握トナルモノニシテ斯クテコソ帝國ハ安ジテ大東亞戰ノ遂行ニ邁進シ得ル譯ナルヲ以テ國民政府強化ノ唯一ノ基礎タル民心收攬ノ爲ニハ帝國トシテモ極力之カ達成ニ協力シ目前ノ犠牲ヲ惜ムコトナク之カ援助ニ全力ヲ傾倒スベキナリ
 目前ニ種々ノ不便利有之ベキモ一度國民政府カ民心收攬ニ成功セシカ當初拂ヘル犠牲ノ如キハ問題トナラザルニ至ルベク、反之國民政府ノ民心把握現狀ノ如キ狀態ナルニ於テハ時日ノ經

外務省

0099

REEL No. A-0231

アジア歴史資料センター

過ト共ニ帝國ノ負擔益々加ハリ收拾スベカラザル事態トナルベ
 キハ想像ニ難カラズ
 三 國民政府ノ參戰ノ意義ハ斯クノ如キ期待ニ出ツルモノニシテ右
 ハ國民政府トシテモ將又帝國トシテモ支那ノ時局收拾ノ爲ニハ
 唯一ツ殘サレタル方策ナリトス萬一參戰ノ後右ノ如キ期待裏切
 ラレンカ支那ノ民心離反ハ從來ノ比ニ非サルベキヲ以テ最后ノ
 切札タル參戰ニ依ル民心更新ノ策ヲ行フニ當リテハ之ニ伴フ影
 響ニ付十分ノ見透ヲ付ケタル上ノコトトスルヲ要ス見透シハ主
 トシテ懸ツテ帝國政府ノ決意及右決意カ帝國官民特ニ在支官民
 ニ徹底シ而モ之ヲ實行シ得ルノ確信ヲ得ラルルヤ否ヤニ在リ
 斯カル精神的準備工作ナクシテ此ノ難事業ニ乘リ出スハ却テ有
 害ナリト認メラル
 四 右ノ如キ決意ト準備ト整ヒタル上ハ斯ル精神ヲ具現スルヲ適當
 ト認ム支那國民ノ宿望タル不平等條約撤廢ノ旗幟ノ下ニ右精神

0100

外務省

39

ノ具現ヲ期シ民心收攬ニ協力スルコト適當ト認ム

0101

外務省

39